

ZSSSK

# 生活科・総合教育だより

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会会報

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

事務局 東京都武蔵野市立境南小学校  
東京都武蔵野市境南2丁目27-27  
TEL 0422-32-3401

発行人 宮崎 倉太郎  
編集人 小高 和子

## 第31回 全国小学校生活科・ 総合的な学習教育研究協議会

### 「ARIGATO 東京大会を振り返って」

大会実行委員長 景山 与賜也  
(東京都葛飾区立北野小学校長)

東京大会は、令和4年11月10日～11日の2日間におわたって開催されました。10年ぶり4度目の開催でした。この大会は、第24回関東地区学校生活科・総合的な学習教育研究協議会の大会でもありました。

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面とオンラインの両方で研究成果を発信するハイブリッド開催となりました。これも、一昨年度の千葉県、昨年度の大阪府の方々のご苦勞とご努力を積み重ねた成果により実現できたものと深く感謝しております。

開催11月10日時点で、感染第8波の始まりで、新たな感染者数が全国で7万人を超え、東京都でも7969人の状況にもかかわらず、対面・オンラインを含め約550名の参加者があったこと、海外からオンラインで参加された方もいたこと、皆様には心より感謝申し上げます。

さて、大会の様子ですが、1日目は、開会行事の後、研究主題「新たな価値の創造～深い学びの実現を目指して～」について、東京都から基調提案させていただきました。

新型コロナウイルス感染症流行に象徴される先が予測しにくい現在において、未来に希望をもち、困難に立ち向かうためには、これまでとは違ったものの見方や考え方をしながら、新たな価値を見出すことが必要になってくると考えています。世の中の変化に合わせ、主体的・対話的に学び、気づきや認識を更新していきながら深い学びをする子供たちの育成を目指した授業改善の在り方について提案させていただきました。

基調提案の後は、シンポジウムを行いました。前本協議会会長で東京成徳大学特任教授の齋藤 等先生の司会のもと、國學院大學教授 田村 学先生、上智大学教授 奈須 正裕先生のほか、現場で実践されている東京都大田区立久原小学校指導教諭 小笠原さちえ先生、墨田区立二葉小学校主幹教諭 松原 大樹先生をシンポジストとして「新たな価値の創造～深い学びの実現を目指して～」について討論していただきました。深い学びで子供達の姿はどう変わっていくか、その実現のための教師の役割について、田村先生、奈須先生に様々な見地から語っていただくとともに、現場の教員である小笠原先生、松原先生には児童の具体的な学びの姿などを語っていただきました。

1日目の最後は、文部科学省教科調査官 齋藤博伸

先生のご講演でした。演題は、「予測困難な未来を切り拓く新たな生活科・総合的な学習の時間はこう創る」です。

新型コロナウイルス感染症流行に象徴される未来が予測困難な現在において、主体的・対話的に学び、価値を更新していきながら深い学びをするこれからの生活科・総合的な学習の時間の単元づくりについて、学習指導要領解説に基づき、具体的な事例も紹介していただきながらご指導いただきました。これら基調提案、シンポジウム、記念講演の様子は、大会終了後、令和5年1月31日まで、大会申込された方々にはオンデマンド配信をさせていただきました。大会終了後、オンデマンド配信したことは、1日目参加できなかった方には好評をいただき、参加された方も地元に帰られた後、視聴を通じ再度学び直しすることができたことと思います。終了後の全国理事会もハイブリッド開催で行いましたが、直接参加された理事の方も多くいて、3年ぶりに対面で情報交換することができました。

2日目は、1日目の内容をさらに深めることを目指し新宿区立落合第三小学校、大田区立道塚小学校、世田谷区立世田谷小学校、練馬区立開進第三小学校の4会場で開催、授業協議会、課題別分科会を実施しました。4会場校とも全学級授業公開、一部の公開授業はオンラインのライブ配信をしました。コロナ禍の中、様々な制約のある中で工夫し、具体的な活動を積み重ね、思いや願いの実現、探究的な課題解決に向けて「本物・本気・本音」で学ぶ子供の姿がどの授業からも伝わってきました。新宿区立落合第三小学校では、文部科学省教科調査官 加藤 智先生、大田区立道塚小学校では、文部科学省教科調査官 齋藤 博伸先生、世田谷区立世田谷小学校では、元文部科学省主任視学官 嶋野 道弘先生、東京学芸大学名誉教授 平野 朝久先生、上智大学教授 奈須 正裕先生、練馬区立開進第三小学校では、國學院大學教授 田村 学先生に指導講評を頂きました。

課題別分科会では、3つの視点「学習過程」、「表現」、「関わり」から、19分科会、全国から38本の報告が行われました。全国の先生方が対面・オンラインでつながり活発な討議、意見交換ができました。

2日間を通して、限られた条件の中ではありましたが、本協議会としても一歩前進し、学びの多い大会となりました。前例がなかったハイブリッド開催の為、ご不便や支障をきたしたことは、深くお詫び申し上げます。東京の教訓をもとに、次年度京都大会の成功を切に願っているところです。東京都も、今後も更なる生活科・総合的な学習の時間の充実に向けて、努力してまいります。

実行委員会として、全国の皆様に御礼を申し上げます。上を向いて歩こう。ありがとうございました。

## 令和5年度の東北大会へ向けて ～つながろう「出羽富士」鳥海山の麓で～

山形県小学校生活科・総合的な学習研究協議会  
会長 吉田 健志  
(山形県山形市立滝山小学校長)

### 【動き出す1年】

山形県は、北は鳥海・神室山系、東は蔵王・御所山系、南は飯豊・吾妻山系の山に囲まれた県です。中央にある出羽三山が4つの地域を隔てているため、村山・置賜・最上・庄内の4地区は、それぞれ特有の文化が息づいています。今年度は、令和5年度に本県で開かれる東北大会を成功させようと、庄内の酒田市が意欲的に研究を推進してきました。かつて北前船が最上川を上って他地区を豊かにしたように、酒田市の実践が、最上・村山・置賜地区の大きな刺激になった1年でした。

山形市の生活科・総合的な学習部会でも、2年間の“冬眠期間”から抜け出し、春に向かって動き出そうと積極的に研修を行ってきました。山形らしい探究課題として是非取り入れたいものに「紅花」があります。昨年度まで「紅花染め」実習が実施できずリモートによる講話だけでした。今年度は何とか紅花染めを体験したいということで、5月にリモートによる「紅花染め」実習を行いました。ホスト校と市内42校をマイクロソフトTeamsで結び、ホスト校からの説明をタブレット越しに視聴して一緒に紅花染めを体験するという形で実施することができました。また、8月の「山形の歴史・伝統を学ぶ七日町探索」では、参加者40名を2グループに分け、講師2名による2コース入れ替え制にすることでフィールドワークを行うことができました。古地図と照らし合わせながら現存する建造物を見学する貴重な体験になりました。他にも、様々な開催方法の工夫により、コロナ下でも学びを止めることなく有意義な研修を行うことができるということを実感することができました。

本市以外の県内各地区においても、酒田市の研究実践に刺激を受け、工夫しながら様々な研修・実践を行う、一歩前へ「動き出す1年」になりました。

### 【東北大会への道】

#### 1 「山形プレ大会」の開催

◇期日 令和4年10月27日

#### ◇研究主題

「わくわくどきどき ふるさとから 未来を創ろう」

◇会場 酒田市立西荒瀬小学校  
酒田市総合文化センター

#### ◇公開授業

- ①2年生活科  
「スマイルたんけんたい！！  
～町のすてきを話そう～」
- ②6年総合的な学習  
「さけの歴史を伝えよう  
～世代を超えて未来へ～」

#### ◇記念講演

「探究しながら学ぶことの意味」  
講師 山形大学教授 野口 徹 氏

## 2 令和5年度本大会の予定

「第30回東北小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会山形大会」(第10回県小学校酒田飽海大会、第4回県中学校酒田飽海大会)

□大会主題 「わくわくどきどき ふるさとから  
未来を創ろう」

□期日 令和5年12月1日(金)

※11月30日午後東北理事会・レセプション

□会場 酒田市立八幡小学校、酒田市立鳥海八幡  
中学校、酒田市総合文化センター

#### □公開授業

- ①酒田市立八幡小学校 (4授業)
- ②酒田市立鳥海小学校 (持ち込み1授業)
- ③酒田市立一條小学校 (持ち込み1授業)
- ④酒田市立鳥海八幡中学校 (3授業)

#### □記念シンポジウム テーマ未定

- ・文部科学省教科調査官 齋藤 博伸 氏
- ・山形大学教授 野口 徹 氏
- ・山形市教育委員会 大谷 敦司 氏

### 【つながろう「出羽富士」鳥海山の麓で】

今年度の秋田大会、山形プレ大会とも、参加者数は絞ったものの、参集型の大会を実施することができました。その場だからこそ感じる子どもの育ちや授業者の意気込みなどに触れ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

来年度の山形(酒田)大会の見所は、山形県中学校総合的な学習研究協議会酒田飽海大会も兼ねており、鳥海八幡中学校とその中学校へ進学する小学校が、同じ研究主題で実践を積み重ね育ててきた児童・生徒の生の姿をご覧いただくことができるところです。現在のところ、皆様方からお集まりいただき実施する予定であります。ウィズコロナ・ポストコロナ時代の生活科・総合的な学習について、多くの方々と交流できればと思っております。



## 中国地区・広島県教育研究大会を終えて ～新たな挑戦から見えてきたこと～

広島県 小学校生活科・総合的な学習教育研究部会  
部会長 **松島真里子**  
(広島市立向洋新町小学校長)

### 1 はじめに

新学習指導要領全面実施から3年目を迎えました。その間、何度も押し寄せる新型コロナウイルス感染症感染拡大の波により、学校や子供たちを取り巻く環境は急激に変化し、教育界も柔軟な対応や様々な変化に即した新たな取組が求められてきました。また、GIGAスクール構想による一人一台タブレット端末の導入により学び方のスタイルも大きく変わってきています。

そうした中、広島県では「一人一人が、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造する人づくりの実現」を本県教育の目指す姿として掲げ、子供たち一人一人の資質・能力の育成に向け、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を図るべく、各学校で様々な工夫しながら実践を積み重ねてまいりました。

### 2 大会に向けての取組

令和4年10月28日(金)、広島市立落合小学校を会場校として「第9回中国地区・広島県小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究大会」を開催いたしました。研究主題を「新しい時代に必要となる資質・能力を育む生活科・総合的な学習の時間の創造」～気付き・探究の質を高める学習を通して～とし、現在、地域や社会が直面している多くの課題の中から自分事として問いを立て、必然性のある探究活動を通して気付きや探究の質を高めていくことを目指しました。

開催方法については、開催時期のコロナの感染状況が読めないことから大変残念ではありましたが、オンライン（Zoomミーティング）及びオンデマンド配信（授業録画）で行うことといたしました。当初は、令和2年度から実行委員会を立ち上げ、大会に向けての準備を進めていく予定でしたが、コロナ禍の影響で県内各市町のほとんどの研究会が中止を余儀なくされ、実質令和3年度、大会前年度の実行委員会スタートとなりました。

ここ数年、オンライン開催等で皆様が大変ご苦労されたことはお聞きしておりましたが、大会運営を行ってみてその意味を改めて痛感いたしました。想像をはるかに超えた困難さに、まさに「挑む」ような気持ちで臨んだ大会でした。

最初は、オンラインについても専門業者に委託することとしていましたが、費用が高額になることから別の方法を模索することとなりました。

大会に向けては、年に6回の研究会（広島市小教研生活・総合部会）及び夏季研修会を計画し、取組の方向性や指導案検討、講師を招聘しての講演会等を行いました。

### 3 学ぶことが推進力に

本大会では、國學院大學教授 田村 学様より「主体的・対話的で深い学びと学習評価」をテーマにオンラインでのご講演をいただきました。また、研究協議会では、広島県（広島市）小学校教教育研究会立ち上げ当初から本研究会でご教授いただいていた安田女子大学 客員教授 朝倉 淳様よりご指導、ご助言をいただきました。お二人をはじめ、これまでにたくさんの先生方のご指導を仰ぐことで、生活科・総合的な学習の時間の最新情報（理論や先進的な取組等）も得ることができ、研究の大きな推進力となりました。また、模索しながらも会員皆が一つとなって新たな大会の在り方を形づくることができたことは、大きな成果であったと感じています。

### 4 終わりに

本大会を振り返り、新たな挑戦を通して見えてきたことは、運営面においては「多様な開催方法の開発とその可能性」「運営組織体制づくりの重要性」です。授業動画を編集することで焦点化された児童の見取りを同じ目線で共有することができたことは新しい発見でした。今後ますますデジタルをうまく取り入れながらリアルとの融合を図っていくことが求められるのではないかと思います。

また、研究の視点においては、本研究を通して未来を生きる子供たちに必要な力の一つとして「つながりを見出す力」を育てる大切さも見えてきました。

本大会で得られた豊かな学びと有意義な取組は、令和7年度、広島県で開催される全国大会へ向けての大きな一歩となりました。今後も会員一同、子供たちの瞳が輝く生活科・総合的な学習の時間の実現を目指し研究に励んでまいります。

## 新たな価値」と「原点」を大切に歩みたい 全国小学校生活科総合的な学習教育研究協議会

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会  
会長 宮崎 倉太郎  
(東京都武蔵野市立境南小学校長)

まずは、11月の全国大会東京大会において、全国から多くの皆様のご支援・ご協力をいただきありがとうございました。おかげさまで、現地参加・オンライン参加を含め約800名のご参加をいただきました。

1日目の全体会は、基調提案に続くシンポジウムで、奈須正裕先生(上智大学)、田村学先生(國學院大學)と実践者である東京都の小笠原さちえ先生(大田・久原小学校)、松原大樹先生(墨田・二葉小学校)の4名の先生方により生活科・総合的な学習の時間の本質にかかわる活発かつ具体的な議論が、本会前会長の齋藤等先生(東京成徳大学)のコーディネートで展開されました。さらに、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 齋藤博伸先生より、今日的な生活科・総合的な学習の時間の課題を踏まえた記念講演をいただき、大会主題である「新たな価値」について貴重なご示唆をいただきました。最後に来年度の開催地である京都より決意とご案内をいただいて1日目は終了となりました。

2日目は、4つの会場(新宿・落合第三小学校、大田・道塚小学校、世田谷・世田谷小学校、練馬・開進第三小学校)に分かれての授業公開と課題別分科会が実施されました。各会場校では、一部ではありますが授業の様子の中継も行うハイブリッド方式により、全国から画面を通して視聴・協議に参加いただくことができました。

さて、学習指導要領や中教審答申における記載はもちろん、コロナ禍を通じた学校教育や実社会の変化においても、生活科・総合的な学習の時間がこれからの「生きる力」の中核になることは明確になっています。一方で、生活科・総合的な学習の時間が新設されてきた原点を改めて確認することの大切さについても、大会の2日間における子供たちや先生方の姿、全国からの課題別分科会の内容や講師の先生方のご指導から感じ取ることができました。私にとっての「原点」は、「主人公たる一人の子どもの『学びのドラマ』に向き合う」だと考えています。すでに、様々なところで次期学習指導要領の方向性について議論がなされていますが、全国の先生方にとっての「生活・総合の原点」を見つめ直しつつ、歩みを進めていただければと願っています。

次年度、11月9日(木)・10日(金)は、京都での全国大会となります。京都でお会いできることを楽しみにしています。

## ＜事務局だより＞ 全国理事会報告

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会  
事務局長 八木 慎一  
(東京都青梅市立第二小学校長)

全国理事会は毎年2回開催しています。第1回理事会は例年7月の第1金曜日の午後に東京で行い、年間の活動計画や予算案の検討、全国大会・地区大会の案内、情報交換、記念講演会等を実施しています。第2回理事会は、全国大会の初日の夕方に情報提供・情報交換を中心に実施します。

今年度は、第1回はオンラインで、第2回は全国大会(東京大会)の会場とオンラインの併用によるハイブリッドで開催いたしました。その中で文部科学省の後援名義申請の基準が変わり、全国規模の大会のみを後援する原則となったため、ブロック大会等では以前から継続して後援されている大会以外は申請を受理されないことがある旨を報告しました。また、全国大会やブロック大会でご講演いただく講師の先生の日程が重複しないよう今後の日程を確認したり、広報誌の執筆担当をブロック内で分担したりしました。

令和5年度は、北海道ブロックは札幌大会、東北ブロックは山形大会、関東ブロックは群馬大会、近畿大会は京都大会(全国大会を兼ねる)、中国ブロックは島根大会、四国ブロックは香川大会、九州ブロックは鹿児島大会が予定されています。

### 令和5年度全国理事会のご案内

- 令和5年度の第1回全国理事会を、以下のとおり開催いたしますので、ご予約おきいただきますようお願いいたします。理事交代予定の都道府県におかれましては、確実な引継ぎをお願いするとともに、新理事名・所属校・連絡先等の情報を3月中に事務局長までメールでご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

(メールアドレス yagi-sh@ome-tky.ed.jp)

日時：令和5年7月7日(金)

全国理事会・記念講演 14:00～16:45

情報交換の会 17:00～19:00

会場：未定(参集型・オンライン型も検討中)

内容(予定)：事業報告・決算報告・役員案・事業計画・予算案審議・新会長及び全国大会開催県挨拶・ブロック別情報交換及び全体会・記念講演(講師:教科調査官)15:30～